

社会福祉法人 吉備の里(法人事務局)

平成29年度 事業報告書

利用者サービスの充実と向上を基本とし、適正かつ安定した法人運営に向けて、年度計画に基づいた以下の重点施策について取り組んだ。

(第一種社会福祉事業)

○障害者支援施設(吉備の里なでしこ)

(第二種社会福祉事業)

○障害福祉サービス事業

生活介護事業(吉備の里たんぽぽ)

共同生活援助事業(吉備の里地域生活ホーム)

自立訓練事業(吉備の里なでしこ、吉備の里つばき寮)

就労移行支援事業(吉備の里なでしこ)

就労継続支援事業

(吉備の里チャレンジ、吉備の里ひなぎく、吉備の里希望)

○障害児相談支援事業(吉備の里相談支援センター)

○特定相談支援事業(吉備の里相談支援センター)

○福祉ホーム事業(吉備の里希望)

(公益事業)

○日中一時支援事業(吉備の里地域活動支援センター)

(委託事業)

吉備中央町障害者等相談支援事業

吉備中央町発達支援事業

I 理事会・評議員会の開催

監事監査(平成29年5月30日)

第1回理事会(平成29年6月9日)

平成28年度事業報告・決算について

規程の整備について

新役員候補の選任について

第2回理事会(平成29年9月13日)

定款変更

規程の整備について整備

第3回理事会(平成30年1月23日)

平成29年度第2次補正予算について

規程の整備について

第4回理事会(平成30年3月23日)

平成29年度第3次補正予算について

平成30年度事業計画及び予算について

規程整備について

所長人事について

定時評議員会(平成29年6月26日)

平成28年度事業報告、決算について

役員の選出について

第2回評議員会(平成29年9月25日)

定款変更について

II 重要事項課題への取り組み

1. 地域生活を支える

より安全な地域生活を支えるため、自然災害の危険地域にあったグループホームを廃止し、他法人との連携を図り、快適で、安全な生活環境へ移行できた。

2. 暮らしの安全対策とサービスの質の向上

防火管理体制、連絡の見直しに取り組むとともに、法人内の研修、委員会活動の充実を図った。さらに、福祉サービスの向上を目的とした福祉サービスの第三者評価を「たんぽぽ」にて実施した(別添資料)

3. 福祉人材の確保と定着

利用者の健康管理の充実を図るため、つばき寮、地域生活ホーム、希望、たんぽぽへの看護職員の安定的な配置を行った。保健委員会では、医療的な視点から情報交換を行い、予防や医療的な対応について看護師間での共通認識を図った。

4. 財政基盤の安定化

該当する各種加算を活用し、とりわけ医療連携、処遇改善については、加算額、加算率の最も高い組み合わせで申請した。

また、吉備の里なでしこ生活棟のLED電球の交換や加算率電力調達先を新電力事業者株式会社F-powerへ変更し、28年度と比べ約100万円の経費削減となる。

5. その他

吉備の里希望の送迎業務で使用する車輛について寄贈を受けた。

24時間テレビ チャリティー委員会	3,335,000円	トヨタ エクシア
----------------------	------------	-------------

吉備の里相談支援センター・吉備の里地域活動支援センター 平成29年度 事業報告書

【吉備の里相談支援センター】

障害者及び障害児の将来にわたる安心した地域での生活を支えるため、吉備中央町から委託を受けた相談支援事業所として、基本相談支援及び計画相談支援の両事業を通じ、事業所や関係機関との連携を図りながら、必要とされる情報の提供及び助言、サービス利用計画等の作成他を行った。

1. 吉備中央町委託障害者等相談支援事業

(1)基本相談実施日数:242日(職員計3名)

(2)支援方法

電話相談	171	知的	53
訪問相談	34	身体	14
来所相談	16	精神	183
同行支援	15	発達	0
ケア会議	11	難病	0
その他	7	その他	4
計	254	計	254

(3)障害別利用者

(4)支援内容

福祉サービスの利用等に関する支援	98
健康・医療に関する支援	53
不安の解消・情緒安定に関する支援	85
家族関係・人間関係に関する支援	8
家計・経済に関する支援	12
就労に関する支援(生活困窮含む)	5
生活技術に関する支援	5
保育・教育に関する支援	2
障害や病状の理解に関する支援	18
その他福祉に関する支援	7
計	293

2. 計画相談支援・障害児相談支援事業

(1)計画作成及びモニタリング

月	計画相談支援		障害児相談支援	
	計画作成	モニタリング	計画作成	モニタリング
4	7	7	3	0
5	4	16	2	1
6	3	15	1	0
7	1	12	3	1
8	6	14	2	1
9	8	14	0	1
10	5	18	2	8
11	4	14	3	4
12	11	11	1	1
1	1	5	0	0
2	10	4	1	3
3	12	11	0	6
計	72	141	18	26

合計:257件(内県外5件)

(2)計画相談登録者数(平成30年3月31日現在)

計画相談支援	116名
障害児相談支援	26名

基本相談については、障害者やその家族からの福祉サービス、日常生活等に関する相談(入口、繰り返し)を中心に、ひきこもりケースなどへの対応、障害者の置かれた立場を代弁するという権利擁護の観点に立った介入も適宜行った。

計画相談については、前年度より2割程度減少した件数(昨年度313件)(町内事業者の充実、請求手順の変更他)となったが、ニーズ等の変化やA型事業所の閉鎖問題に伴うサービスの変更が発生するなど、個別支援会議や関係機関との調整他数は増加した。

その他、請求事務手順の見直し、報酬改定等に備えた準備、6年に一度の指定更新(計画相談支援事業、障害児相談支援事業)を行い、所内外の職員研修を通じ、本事業の質の向上に努めた。

3. 吉備中央町障害者等地域自立支援協議会

(1)セッション等

- ・全体会(5月26日)(37団体)岡山県あいサポート研修
- ・運営委員会(全6回)(10団体)
- ・専門部会(全4回～6回)

- ・教育保育部会:就学説明会、発達支援ファイルの検討
- ・生活支援部会:わが町まるごと障害福祉事業所説明会
- ・就労支援部会:バザー、パネル展示、A型事業課題研修会
- ・精神保健部会:依存症講座、みんなの広場交流会
- ・事例検討委員会(全11回)
- ・個別支援会議他

(2)イベント等

- ・支援学校への特別授業(6月30日)
- ・おへそミーティング(町長懇談会)(7月28日)
- ・防犯安全研修(岡山北警察署)(8月22日)
- ・人権研修(長島愛生園視察)(9月7日)
- ・スーパービジョン研修(9月8日)
- ・ふるまいボランティア(ロードレース大会)(10月8日)
- ・人権啓発標語の募集(小学校、中学校)(応募者269人)
- ・チャレンジ交流授業2DAYS(11月10日、11月11日)
- 加賀中学校(講師:片山 明 氏他)

・みんなおいで「福祉まつり」(11月18日)

第一部 基調講演

玉木 幸則 氏(西宮市社会福祉協議会)
『障害のある人もない人もともに暮らせるまちづくり』
～障害者差別解消法の施行を追い風に～

第二部 パネルディスカッション

武縄 和弘 氏(吉備中央町社会福祉協議会)
『地域で暮らし続けるために』
～日常生活自立支援事業の取り組みを通じて～

来場者数(379人) 会場:ロマン高原かよう総合会館

吉備中央町から委託を受けた、自立支援協議会の運営事務局として、障害のある方が自らの“思い”と“力”を最大限に発揮して、その方らしい自立を効果的に支援する同協議会の機能強化に取り組み、共有する“セッション”、協働する“イベント”を計画的に開催し、地域共生社会(住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制)の実現に向け重要な地域の支援体制の構築に努めた。

【吉備の里地域活動支援センター】 (日中一時支援事業)

吉備中央町から委託を受けた日中一時支援事業所(あおば)として、障害児(主に小学校、中学校に就学されている方)への活動の場の提供、見守り、社会に適應するための訓練を実施し、家族介護者の一時的な休息、相談等を通じた育児負担の軽減を図った。

1.実施日数:45日 ※昨年度:47日

2.登録者数:8名 ※昨年度12名

3.利用状況:のべ82人 ※昨年度149人

月	のべ利用数	対象者	実施日	備考
4	10	5	4	木(1)、土(3)
5	5	3	3	土(3)
6	6	3	3	土(3)
7	16	5	6	木(1)、土(5)
8	12	4	8	木(5)、土(3)
9	4	2	3	土(3)
10	4	2	3	土(3)
11	4	3	2	土(2)
12	5	2	3	土(3)
1	5	2	3	土(3)
2	4	2	3	土(3)
3	7	2	4	土(4)
計	82	最低2、最大5	45	木(7)、土(38)

平均利用者数:1.8人 ※昨年度3.1人

職員体制:2名

4.主な活動内容

おやつ作り、調理、体育遊び、ドライブ、社会見学、クリスマス会他

事業開設(H21年度)から9年が経過する中、町内事業者の充実等(放課後等デイサービス)もあり、下期頃より開所日に対し中学生が2名程度となる状況になった。事業に対するデマンドの変化は、送迎体制や社会資源・事業体系等の変化であり、今後における経営的な課題が表面化した。

【吉備中央町発達支援事業】 発達支援教室「ぽけっと」

吉備中央町から事業運営の委託(H26年度開始)を受け、発達に支援が必要な児童及びその保護者に対し、発達を促すための療育と保護者が抱える療育上の不安軽減のための助言や必要となる支援を行った。

1.職員体制:2名(臨床心理士(1)、保育士(1))

2.対象:就学前の幼児(主に2歳~6歳) ※受給者証不要

3.実施日数:91日※昨年度:94日

4.実施曜日等:火曜日、金曜日

(時間:9:20~16:00(1回50分) ※送迎なし)

5.利用状況:のべ441人 ※昨年度304人(約1.4倍)

月	のべ利用数	対象者	実施日
4	26	11	6
5	31	12	7
6	40	12	9
7	29	12	8
8	35	12	7
9	46	12	9
10	47	12	9
11	34	12	7
12	34	13	7
1	37	14	7
2	27	14	6
3	55	15	9
計	441	151	91

平均利用者数:4.8人 ※昨年度3.2人

6.事業効果(母子療育)

例年通りの個別/集団での療育支援(学習、設定保育、自由遊び、読み聞かせ、排泄他)を基本に、就学児への集団療育では、学校生活を意識した「お当番活動」、「時間割風スケジュール」、「挙手式の並列学習」などの新しいものに取り組んだ。

■保護者支援の成果

育児への不安や発達特性への戸惑いを受容し、家庭での関わりなどについて個別のアドバイスを行った。また、児童発達支援事業所「ていんくる」の伊藤先生を講師に、保護者への研修会を開催した。

■保育園、幼稚園との連携による成果

課題を抱えたケースについては、園とカンファレンスの機会を設け(3カ所/10カ所)、必要の都度訪問し、集団生活の様子を見学、療育との連携を図った。また、今年度においては、吉備中央町園長会にも初めて参加するなど、本教室(ぽけっと)の紹介を行った。(10月2日)

■ぽけっと卒業生及び同保護者への支援

昨年と同じく、卒業生1組が継続的に利用し、遊びを通じて気持ちを発散した。夏休みの宿題で、「つまずき」が見られた時には、短いスパンでの支援にも取り組んだ。また、これまでの各保護者との関係を大切にするため、「会」を設立し、名称を「びすけっと」とした。

町内に複数の事業者が開設し、障害児における地域支援の充実が図られる中において、他施設との差別化が重要な課題である。今後においては、岡山市にある「児童発達支援センターまな星」が本年、吉備中央町へ提起した「総合療育検診事業」との連携を深めながら、事業所としての魅力と事業の効果を高めたいと考える。

吉備の里希望(福祉ホーム事業)
平成 29 年度 事業報告

1. 概 要

平成 24 年 4 月より、定員 40 名の福祉ホーム事業（地域生活支援事業）として運営を開始して 6 年目を迎えた。設備面の、老朽化が目立ってきたが安全で安心した生活が出来るよう支援を行った。

【事業推進体制】

利 用 定 員 40 名			
体 制	管理者（兼務）	1 名	
	管 理 人	7 名	

2. 事業目標への取り組み

（1）快適な暮らしの場の提供

福祉ホーム周辺の環境整備や害虫駆除、建具等の不具合の修理等を行った。また、利用者からの要望により居室の清掃等も行い快適な生活の確保を図った。

実 施 月	内 容
29 年 9 月	男子トイレ便座破損
29 年 10 月	汚水枡の洗浄
30 年 1 月	女子浴室扉パネル破損
30 年 2 月	食堂手洗い場センサー故障

（2）利用の促進

市町村、関係機関等へ利用促進の PR を行いましたが新規受け入れはありませんでした。

3. 利用者の状況

定員 40 名に対して月平均契約者数は 29.3 人であった。利用者の年齢は、男性の平均年齢は、44.1 歳、女性の平均年齢は 30.0 歳で全体の平均年齢は 40.6 歳であった。（最高 61 歳）

（1）契約の状況 (人)

年 月	契約者数	男性	女性
4 月	31	22	9

5 月	30	21	9
6 月	30	21	9
7 月	30	21	9
8 月	30	21	9
9 月	29	21	8
10 月	29	21	8
11 月	29	21	8
12 月	29	21	8
1 月	28	21	7
2 月	28	21	7
3 月	28	21	7
合 計	351	253	98

（2）年齢別構成（3月31日現在） (人)

年齢区分	男	女	計
20～29 歳	2	4	6
30～39 歳	6	3	9
40～49 歳	6	0	6
50～59 歳	6	0	6
60 歳以上	1	0	1
計	21	7	28

（3）障害支援区分（3月31日現在） (人)

障害支援区分	男	女	計
5	1	0	1
3	6	1	7
2	6	2	8
1	1	3	4
非該当	1	0	1
未調査	6	1	7
計	21	7	28

(4) 日中活動別構成 (3月31日現在) (人)

日中活動	男	女	計
一般企業等	1	0	1
A型事業所	5	0	5
B型事業所	15	7	22
計	21	7	28

(5) 出身地別構成 (3月31日現在) (人)

市町村	男	女	計
岡山市	3	2	5
倉敷市	1	0	1
玉野市	3	0	3
井原市	1	1	2
総社市	2	0	2
高梁市	3	2	5
瀬戸内市	1	0	1
真庭市	1	0	1
里庄町	0	2	2
吉備中央町	2	0	2
東広島市	1	0	1
福山市	1	0	1
香川県観音寺市	1	0	1
島根県美郷町	1	0	1
計	21	7	28

4. 生活支援等の状況

(1) 食事提供

食事希望者へ、食事保健委員会での協議や嗜好調査を踏まえ、季節感のある食事が提供できた。

(2) 健康・衛生管理

朝・夜の利用者確認を実施し、異常等の早期発見に努めた。また、集団で生活していることから、インフルエンザやノロウイルスなどの感染性の疾患についても懸念されていたが、うがいや手洗いの励行・マスクの着用など周知することで、集団感染を予防することができた。食事制限など必要な方には、健康管理の大切さなど助言を行うなど、安心できるサービス提供を実施した。

5. その他

(1) 契約解除

契約解除月	理 由
29年4月	高齢者施設へ移行 1人
29年8月	地域生活へ移行 1人
29年12月	高齢者施設へ移行 1人
計	3人

(2) 安全管理

消防計画に沿って防災訓練や定期設備点検を行い、利用者の安全確保に努めた。

月 日	内 容
7月14日	防災機器点検、消火訓練
8月18日	合同訓練(避難誘導・通報訓練) なでしこ機械室から出火想定 対象利用者 25人
11月15日	合同訓練(避難誘導・通報訓練) つばき寮喫煙所から出火想定 対象利用者 25人
1月25日	防災機器点検
1月26日	消火訓練

(3) 苦情解決

自治会役員と定期的に意見交換会(年5回)を実施し、利用者からの要望を聞き、改善可能なものは実施した。また、11月21日に第三者委員会を開催し、意見交換会の内容を報告するとともに、第三者委員と自治会役員が直接意見交換を行った。

【利用者自治会役員意見交換会】

月 日	内 容
5月18日	自治会長他5人 特になし。
7月19日	自治会長他5人 共用室の湯沸かし器の水漏れがあり利用頻度も少ないことから修理せずに湯沸かしポットに交換。

11 月 21 日	第三者委員会 自治会長他 3 人 B型事業への要望等なし。
11 月 27 日	自治会長他 4 人 洗濯機や乾燥機などが古くなっている。交換してほしい。
1 月 26 日	自治会長他 2 人 寒くなってきたので暖房の切れる時間を無くしてほしい。

【ヒアリハット】

月 日	内 容
5 月 19 日	(国立吉備高原職業リハビリテーションセンター職員宿舍ポストに怪文書) 希望利用者の記名で、チャレンジ利用者を誹謗中傷する文書が投函されていた。チャレンジ利用者によるいたずら。希望利用者は関係なし。
5 月 26 日	(事務所前にヘビ) 1メートルほどの大きさ。自動ドアからの侵入と思われる。
7 月 9 日 7 月 31 日	(豪雨により食堂側自動ドアより浸水) 排水が間に合わなかった。小降りになり解消。
8 月 22 日	(発作で緊急搬送)

	女子トイレで、発作の為体調が悪くなり救急車で岡山市民病院へ搬送。治療中に心肺停止となるが回復する。服薬開始。
7 月 17 日	(誘導灯の点灯不良) 5号棟に 3 カ所ある誘導灯が点灯していない。消防設備点検時にプレーカーを戻し忘れ。
8 月 8 日 8 月 31 日	(消火ポンプ起動ランプ点灯) 起動ポンプブザーが鳴り減圧となる。業者確認するが原因不明。
8 月 18 日	(娯楽室前にカメ発見) 手のひらサイズ。寮内の通用口の施錠を確認するが特に問題なし。
10 月 4 日	(男子寮トイレ排水不良) 汚水桝の確認を行う。木の根などで排水不良となっていたため業者依頼する。
1 月 23 日	(自損事故) 吉備新線にて凍結の為スリップ転倒事故。車は廃車。シートベルト着用しており当事者はけがなし。

【 第三者委員名簿 】

所 属	氏 名
吉備中央町社会福祉協議会 副会長	黒田 員米
塚本内科医院 居宅介護事業所管理者	柳原富美男

吉備の里希望(就労継続支援B型事業) 平成29年度 事業報告

1. 概 要

平成24年4月より、定員40名の就労継続支援B型事業所として運営を開始して6年目を迎えた。生産活動を主体とした個別支援計画に基づき、日中活動の充実を図った。

【事業推進体制】

利 用 定 員 40名		
体 制	管 理 者	1名
	サービス管理責任者	1名
	生活支援員	3名
	職業指導員	6名
	目標工賃達成指導員	1名
常勤換算		7.7名

2. 事業目標への取り組み

(1) 生産活動の充実

継続して「湯郷ベルホームゲームでのグッズ販売」「岡山シーガルズのグッズ販売」や各種イベント等へ出店し販売量の拡大が行えた。また、「ANA FESTA株式会社 岡山空港店」と委託販売契約など新規販売先の確保に努めた。

下請け受注作業においても、グリス注入作業の新規導入を行うなど自動車部品加工（コルゲート、芯金ほか）を中心とし、個々のニーズ（個別支援計画）に沿った作業の提供を行うことができた。

【作業収入実績】 (千円)

作業収入	平成28年度	平成29年度
下請作業	6,419	6,543
自主生産	7,886	8,593
計	14,305	15,136

(2) 工賃の引き上げ

目標工賃（平均月額）を19,700円としていたが、平成29年度実績（岡山県報告）20,209円を報告することができた。

【工賃実績】 (円)

	平成28年度	平成29年度
目 標 工 賃	18,281	19,700
月平均工賃	19,601	20,209

(延べ人数)	(475人)	(509人)
工賃支払総額	9,310,610	10,286,490

(3) 利用の促進

相談支援センター、支援学校、市町村訪問など利用促進のPRを実施し、平成29年度は4名の新規利用契約ができた。

【新規契約】

契約月日	出身地域	居住先
4月1日	吉備中央町	在宅
4月1日	高梁市	在宅
4月1日	総社市	吉備の里つばき
1月1日	倉敷市	吉備の里つばき

【契約解除】

解除月日	理 由
12月5日	高齢者施設
2月22日	一般就労の為家庭復帰

3. 利用者の状況

(1) 契約の状況

定員40名に対して月平均契約者数は44名（41名）、月平均利用者数は38.7名（35.9名）で、利用率は96.8%であった。

【利用者数推移】 (人)

月	契約数	開所日	延人数
29.4月	44	22	851
5月	44	22	867
6月	44	22	848
7月	44	21	796
8月	44	21	834
9月	44	20	788
10月	44	21	819
11月	44	21	832
12月	44	21	831
30.1月	44	21	792
2月	44	20	758
3月	43	22	822
合 計	527	254	9,834

(2) 年齢別構成 (3月31日現在)

利用者の年齢は、男性の平均年齢は、43.0歳、女性の平均年齢は34.8歳で全体の平均年齢は40.7歳であった。(最高70歳)

(人)

年齢区分	男	女	計
20歳以下	2	0	2
20～29歳	4	5	9
30～39歳	6	6	12
40～49歳	6	3	9
50～59歳	5	1	6
60歳以上	4	1	5
計	27	16	43

(3) 障害別構成 (3月31日現在) (人)

障害支援区分	男	女	計
肢体不自由	19	7	26
視覚障害	1	2	3
聴覚障害	1	1	2
知的障害	6	5	11
精神障害	0	1	1
計	27	16	43

(4) 居住別構成 (3月31日現在) (人)

居住場所	男	女	計
希望福祉ホーム	16	7	23
吉備の里GH	5	2	7
つばき寮	1	2	3
高齢者施設	2	1	3
自宅	3	4	7
計	27	16	43

4. その他

(1) 防災

消防計画に沿って、通報・避難・消火等の訓練を実施するとともに、委託業者による消火器・誘導灯・非常放送などの設備点検を実施した。

月 日	内 容
6月7日	合同避難訓練 (避難誘導) たんぼ食堂1Hの漏電想定 午後2時より利用者 38人
7月14日	防災機器点検、消火訓練
2月23日	合同避難訓練 (避難誘導)

	地震想定震度5弱 午後2時より利用者 35人
1月25日	防災機器点検
1月26日	消火訓練

(2) 健康管理

総合健康診断・歯科検診等を実施し、利用者の健康管理に努めた。

【検診等】

月 日	内 容
6月20日	歯科検診：大森歯科医院
8月31日	検便提出 (異常なし)
9月8日	検便提出 (異常なし)
10月27日	総合健康診断
11月7日	健康づくり財団
12月5日	インフルエンザ予防接種
12月7日	賀陽クリニック

(3) 利用者研修

月 日	内 容
4月15日	・利用の心得について ・工賃について 利用者 35人
7月21日	・食中毒について 利用者 35人
11月2日	・研修旅行 (香川県) NEWレオマワールド 利用者 44人 保護者 6人
1月27日	・歯の健康について 外部講師 岡山県歯科衛生士会 利用者 32人

(4) 行事

月 日	内 容
5月4日	歓迎会 利用者 44人 保護者 11人
8月12日	サマーパーティー 梶谷基金助成事業 利用者 42人 保護者 6人 一般 5人
10月27日	施設利用者交流会 (福祉施設協議会) さやかなる苑 利用者 2人
12月23日	利用者忘年会 利用者 43人

1月10日	利用者初詣 吉川八幡宮 自治会役員5人
-------	------------------------

(5) 苦情解決

自治会役員と定期的に意見交換会（年5回）を実施し、利用者からの要望を聞き、改善可能なものは実施した。また、11月21日に第三者委員会を開催し、意見交換会の内容を報告するとともに、第三者委員と自治会役員が直接意見交換を行った。

【利用者自治会役員意見交換会】

月 日	内 容
5月18日	自治会長他5人 朝礼や作業中におしゃべりをしている人がある。（朝礼時に伝達）
7月19日	自治会長他5人 特になし。 サマーパーティー打合せ。
11月21日	第三者委員会 自治会長他3人 B型事業への要望等なし。
11月27日	自治会長他4人 特になし。 忘年会、初詣の打ち合わせ。
1月26日	自治会長他2人 特になし。

【ヒアリハット】

月 日	内 容
5月23日	（昼食に髪の毛混入） 利用者がピラフの中から発見する。健康被害無し。
5月22日	（腹痛の為通院） 作業中に腹部の痛みを訴え通院し検査するが異常なし。
6月15日	（ナスアレルギー） 昼食時にナスアレルギーの利用者に配膳をしてしまう。当事者が気づき省いたため大事にならず。
6月29日	（金銭トラブル） 利用者同士のメールのやり取りで「お金を払え」と書いていたため情緒が不安定となる。
7月17日	（金銭トラブル） 「お金を貸した、貸さない」で言い合いになり職員が介入することで解決する。
1月25日	（ピーナッツアレルギー） 昼食時の食事にピーナッツ和えがあり食してしまう。体調の変化はなく保護者・相談支援センターへ連絡を入れ様子観察となる。

【第三者委員名簿】

所 属	氏 名
吉備中央町社会福祉協議会 副会長	黒田 員米
塚本内科医院 居宅介護事業所管理者	柳原富美男

吉 備 の 里 な で し こ 平成 29 年度事業報告書

1. 概 要

支援学校高等部を卒業した知的障害者を中心に、自立訓練（生活訓練）事業、就労移行支援事業を実施し、家庭の支えが弱い利用者や通所が困難な利用者には、併せて施設入所支援を行った。

自立訓練では地域生活を送るために必要な日常生活スキルの獲得と向上を、就労移行支援事業では一般就労等への移行を目標とし、適切な訓練や支援を行った。

また、施設入所支援においては、規則正しい生活、楽しみのある生活を念頭に様々な支援を行った。

2. 事業目標の検証

（１）就労移行・地域移行の推進

平成 29 年度に就労移行支援の利用を終了する予定の 8 名に対し、求職活動を積極的に展開した結果、全員を一般就労又は就労継続支援 A 型事業書へ就職させることができた。内訳は次のとおり。

区 分	男	女	計
一 般 就 労	1	1	2
就労継続支援 A 型	2	1	3
就労継続支援 B 型	1	0	1
計	4	2	6

なお、2 名については、29 年度末にて内定を受け、5 月 1 日付で一般就労 1 名（男性）・就労継続支援 A 型 1 名（男性）が就職している。

また、上記 6 名全員が施設入所支援事業利用者であり、就職に伴って全員を希望する地域又は宿泊型自立訓練へ移行を終えている。

（２）新規利用の促進と定員の管理

毎年 10 人前後の退所者があることから、新規利用者の確保へ向けた PR 活動（支援学校訪問）や体験利用の受け入れを積極的に行い、利用定員の充足に努めた。

支援学校の新卒者の利用は 10 名、その他に専

門学校卒業生 1 名、計 11 名の新規利用者を確保することができた。

所 属	男	女	計
誕生寺支援学校	1	2	3
岡山東支援学校	1	1	2
西備支援学校	2	0	2
倉敷支援学校	1	0	1
倉敷まきび支援学校	1	0	1
琴浦高等支援学校	1	0	1
岡山科学技術専門学校	1	0	1
計	8	3	11

※支援学校はいずれも高等部

また、定員状況は第 1 表、第 2 表のとおりとなり、就労移行支援事業の求職活動を下半期に集中させることで、定員に沿った運営を行うことができた。

3. 利用者の状況

日中活動において、自立訓練事業では定員 20 人に対して一日平均 18.6 人、就労移行支援事業では定員 20 人に対して一日平均 20.4 人の利用があった。

一方、施設入所支援においては、一日平均 37.0 人の利用があり、40 名の定員を下回った。

利用者には、新規学卒者が多いこと、利用年限が概ね 4 年間に限られることから平均年齢は約 21 歳となり、引き続き若年世代の利用が多くなっている。

本年度の各月末における入退所の状況及び平成 30 年 3 月現在の利用者の状況は次のとおりである。

第1表 日中活動の利用状況

事業 月	自立訓練事業 (定員20名)			就労移行支援事 業 (定員20名)		
	総計	男性	女性	総計	男性	女性
4月	19	13	6	21	17	4
5月	19	13	6	21	17	4
6月	19	13	6	21	17	4
7月	19	13	6	21	17	4
8月	19	13	6	20	16	4
9月	19	13	6	20	16	4
10月	19	13	6	20	16	4
11月	19	13	6	20	16	4
12月	18	13	5	21	16	5
1月	18	13	5	20	16	4
2月	18	13	5	20	16	4
3月	18	13	5	20	16	4
計	224	156	68	245	196	47

第3表 障害の状況

(療育手帳区分)

区 分	男	女	計
A	1	0	1
B	28	10	39
なし	1	0	2
計	30	10	40

(障害支援区分)

区 分	男	女	計
1	4	1	5
2	12	5	17
3	5	3	8
4	6	1	7
5	1	0	0
6	0	0	0
未判定	2	0	1
計	30	10	40

第2表 施設入所支援(定員40名)の利用状況

月	初日在籍	男性	女性
4月	38	28	10
5月	38	28	10
6月	38	28	10
7月	38	28	10
8月	37	27	10
9月	37	27	10
10月	37	27	10
11月	37	27	10
12月	37	27	10
1月	36	27	9
2月	36	27	9
3月	36	27	9
計	445	328	117

第4表 年齢別内訳

区 分	男	女	計
20歳未満	7	3	10
20～29歳	21	7	28
30～39歳	2	0	2
40～49歳	0	0	0
50～59歳	0	0	0
60歳以上	0	0	0
計	30	10	40

第5表 出身地別内訳

出身地	男	女	計
岡山市	5	1	6
備前市	1	0	1
赤磐市	0	1	1
吉備中央町	2	1	3

倉敷市	4	0	4
笠岡市	2	2	4
浅口市	3	1	4
高梁市	1	0	1
新見市	1	0	1
津山市	5	3	8
真庭市	1	0	1
玉野市	1	0	1
美作市	1	0	1
美咲町	0	1	1
里庄町	1	0	1
広島市	1	0	1
たつの市	1	0	1
計	30	10	40

4. 個別支援計画策定

利用者の意向、適性、障害の特性、その他の事情を勘案して「個別支援計画」を作成し、これに沿って利用者に対し生活訓練事業、就労移行支援事業及び施設入所支援の障害福祉サービスを提供した。

また、その効果についてサービス調整会議をとおして、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、継続的な評価や計画の見直しを行った。

5. 事業の実施状況

利用者個々のステップアップに向け、個別支援計画に沿って、体力づくり、日常生活技能訓練、社会生活適応訓練、作業訓練、職業準備訓練等を実施した。

(1) 自立訓練（生活訓練）事業

① 概要

地域生活を営むうえで必要な日常生活スキルの維持、向上を図るための訓練を行うとともに、就労移行支援や就労継続支援B型等の事業へつなげるための訓練を次のとおり実施した。

近年の利用者の障害特性により日中活動の参加が低下する問題が顕在化している。

② 訓練プログラム

・日常生活訓練

身だしなみ、掃除、洗濯、金銭管理等の生活スキルの基礎訓練をはじめ、社会生活技能訓練（SST）や調理等を実施した。

・作業訓練

法人内他施設の清掃作業、自動車部品組立準備作業、野菜づくり、漬け物加工作業などを基礎訓練として行った。

作業により得られた収入の中から必要経費を差し引き、訓練手当として利用者に還元した。

・施設外訓練

外出訓練として、バス、JR等公共交通機関を利用した買物、余暇活動等を行うとともに、退所後の生活の場の検討に向け、吉備の里つばき寮やグループホームの見学を行った。

・進路支援

利用期間満了を迎える利用者に対して、進路の相談と退所に向けた支援を行った。その結果第8表のとおり移行することとなった。

第8表 利用終了後の移行状況

移 行 先	人数
就労移行支援事業（事業所内）	8
他事業所移行	1
計	9

(2) 就労移行支援事業

① 概要

生産活動や職場実習の機会を提供しながら、

就労に必要な知識及び能力の向上を図り、利用
2年目となる利用者を中心に求職活動を展開し
た。

また、就職した訓練修了者に対しては、職場
への定着のために必要な相談や支援等を実施し
た。

② 訓練プログラム

・作業訓練

施設内訓練として花卉栽培作業を通じて、
清掃、計数、運搬等の職業準備訓練を行い、施
設外訓練として吉備高原都市エリアにある事
業所において実習訓練を行った。

施設外訓練先が1年を通して受け入れるこ
とが難しいこともあり、冬期期間中の作業訓
練の設定に課題を残している。

・生活支援

自立訓練事業利用時から行っている生活ス
キルの向上に引き続き取り組むとともに、公
共交通機関での外出、買物、通院支援等を実
施した。

また、吉備の里地域生活ホーム等との連携
により、グループホームの見学を実施して地
域移行についての学習を行った。

・利用者研修

就労へ向け、社会生活技能訓練（SST）や
就労意欲の向上を図るための研修会を開催
し、移行へ向けた支援を実施した。

・求職活動支援

利用期間満了を迎える利用者を中心に、公共
職業安定所、障害者職業センター等障害者雇用
支援機関との連携を図りながら、職場見学、就
職面接会、個別面接、企業実習等への参加支援
を行った。

その結果第11表のとおり対象者全員を移行
することが決まった。

なお、就職退所者については、就業・生活支援セ
ンター、相談支援事業所等と連携して就労後の
フォローアップ、アフターケアにより、就労定着
及び生活の安定に向けた支援を実施した。

第11表 利用終了後の移行状況

就 職 先	所 在 地	区 分	人 数
岡大グッドジョブ	岡山市	一般	1
ハローワーク津山	津山市	一般	1
スタート・ワーキングサポート	美作市	A型	1
アグリネット加賀	吉備中 央町	A型	2
コスモスワーク	真庭市	B型	1
計			6

なお、就業先及び生活の場であるグループ
ホームの利用開始の事情から1名は1ヶ月の
み利用を延長し5月からの雇用となる者1名
と4月のみ就労継続支援B型事業を利用し5
月からの就労継続支援A型事業への雇用が決
まっている者が1名となっている。

（3）施設入所支援

・日常生活支援

安心・安全な寮生活を支援できるよう、清
掃・洗濯・入浴・食事・健康管理・衛生管
理・余暇活動・金銭管理等について必要に応
じて個別の支援を行った。

夜間支援員とは、定期的に会議を開催し引
継ぎなどの情報の提供時には、具体的な支援
のあり方を伝えるようにし、支援の質の向上
を図っている。

・行 事

施設での生活において、利用者がゆとりと
活力に満ちた生活が送れるよう第12表の行
事を行なった。

なお、行事の企画にあたっては、利用者が
参加するなどし、利用者の意向を取り入れる
ことに努めた。

第 1 2 表 行事開催・参加の状況

月 日	件 名	場 所
4. 3	新利用者歓迎式	施設内
4. 9	花見会	施設内
5. 14 他	障害者スポーツ大会（各種競技）	岡山市内 他
6. 4	ふるさと祭り	施設内
7. 8	利用者研修旅行	姫路・香川
10. 8	ロードレース大会	都市内
11. 5	保護者会バス旅行	広島市
12. 3	餅つき他	施設内
1. 5	成人式	施設内
3. 30	訓練終了式	都市内

・健康管理支援

嘱託医による健康診断を毎月 1 回実施しながら、異常が認められた者や変調を訴えた者について、看護師及び支援員が医療機関に引率受診するなどの支援を講じた。

冬期期間には、積極的にインフルエンザの予防接種を呼びかけると共に予防的な措置について支援、促しを行っている。

また、入院については、利用者 1 名が腸閉塞による入院があったが、その他の利用者については定期的な受診を看護師及び家族と連携し行っている。

・自治会活動

行事の企画参加、施設への要望の取りまとめ、生活上のルール作りなどを利用者の自主的活動としての自治会活動を尊重し、側面から指導・支援した。

6. その他の施設運営

（1）見学・利用相談・体験利用の受け入れ

市町村や相談支援事業所、支援学校等と連携を図るとともに、見学や利用相談を積極的に受け入れた。

その上で、施設をより深く理解してもらい、利用後のミスマッチを防ぐためにも短期間の体験利用及び複数回の利用を設定するなど次年度

の新規利用者の獲得に努めている。

その結果 9 名が平成 30 年度当初の利用見込みとなっている。

（2）苦情解決（事故の発生）

施設内における苦情処理責任者・苦情受付担当者及び外部の第三者委員を配置して解決体制を整えた。

その結果、苦情は 0 件であったが、苦情につながる可能性のある「ヒヤリ・ハット事案」については報告を実施し助言をいただいている。

なお、保積第三者委員については、個別の事情により年度途中で退任の手続きを実施している。

第 1 3 表 第三者委員名簿

役 職 名	氏 名
吉備国際大学 副学長 社会福祉学部教授	保積 功一
元吉備中央町知的障害者相談員	吉岡 喜代子

（3）防災対応

各施設の防災担当で組織する防災委員会により、避難・通報・消火等の訓練方法について確認しながら実施するとともに、設備点検（業者委託）や消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。

4 月にベッドライトが寝具に倒れ、熱による焦げが発生する事案が発生しており、管理上の見直しを実施している。

（5）防犯対策

神奈川県相模原市の障害者支援施設で起きた利用者殺傷事件を受けて実施した、催涙スプレアの配置、防犯カメラの設置（3 カ所）、フェンスの施錠管理など継続的な防犯対策を行うと同時に夜間支援員との連携も再確認とした。

また、実際の不審者を想定した対応訓練を職員が参加型として開催し防犯意識の向上に努めている。

(6) 施設・備品等の整備

建設から30年以上を経過し、老朽化しつつある施設の維持・補修に努め、

安全・衛生・美化の推進を心がけ、施設の保全に努めた。

(7) 学生実習・ボランティアの受け入れ

学生の福祉実習については、養護実習として大学・短大・専門学校などの養成校10校から20名を受け入れた。

宿泊を伴う実習の中で、職業経験・生活支援等の実践と共に障害者の支援について知識を得ることを目的として実施している。

また、ボランティアや福祉体験として学生を中心に延べ30名を受け入れた。

吉備の里ひなぎく（就労継続支援B型事業）
平成29年度事業報告書

1. 概 要

平成25年4月より障害福祉サービスの就労継続支援B型事業所（定員25名）の単独施設として運営を開始し、おしぼり作業を中心に生産活動や就労に必要な知識の習得や能力の向上に向けた支援を行った。27年4月1日からは定員を30名に増員し、多くの障害者の方の活動の場となっている。

2. 事業計画の重要事項

①利用率の確保

定員30名に対し、33名の方と利用契約を行い、月平均利用者数は28.8人、年間利用率96.0%であった。

第1表 利用率及び福祉収入の状況

区分	27年度	28年度	29年度
定員	30名	30名	30名
開所日	272日	268日	269日
延利用者数	7,423人	7,695人	7,765人
月平均利用者数	27.2人	28.7人	28.8人
利用率	90.6%	95.6%	96.0%
収入 (単位：千円)	53,615	59,521	60,598

(※利用率計算について少数点第二以下切り捨て)

②利用者支援の充実

利用者及び家族と個別懇談を行い、利用者の意向、適性その他の事情を勘案し「個別支援計画」を作成し、個々の利用者へ生産活動を通じ、社会生活に必要な支援を行った。

③利用者工賃の向上

月額平均支給額36円、増額支給することができ、岡山県B型事業所の平均賃金を上回る支給ができた。

第2表 工賃支給状況 (単位：円)

区分	27年度	28年度	29年度
年支給額	7,464,340	8,193,135	8,061,428
時間単価	179	190	181
月額平均額/人	20,792	20,795	20,831
岡山県B型 工賃実績	12,873 (26年度)	13,254 (27年度)	13,691 (28年度)

第3表 作業収入状況 (単位：千円)

区分	27年度	28年度	29年度
おしぼり	44,902	43,213	40,715
自動車部品	17	0	0
合計	44,919	43,213	40,715

3. 利用者の状況

第4表 利用者の状況

月	開所日数	延利用者数	月平均利用者数	利用率
4	22日	651人	29.5人	98.3%
5	23日	657人	28.5人	95.0%
6	23日	663人	28.8人	96.0%
7	22日	626人	28.4人	94.6%
8	23日	635人	27.6人	92.0%
9	22日	622人	28.2人	94.0%
10	23日	657人	28.5人	95.0%
11	22日	647人	29.4人	98.0%
12	25日	671人	26.8人	89.3%
1	21日	637人	30.3人	101.0%
2	20日	597人	29.8人	99.3%
3	23日	702人	30.5人	101.6%
計	269日	7,765人	28.8人	96.1%

(※利用率計算について少数点第二以下切り捨て)

第5表 年齢構成 平成30年3月末日

年齢区分	男	女	平均年齢
20未満	1人	0人	35.5歳
20～29歳	5人	1人	
30～39歳	12人	5人	
40～49歳	3人	3人	
50歳以上	2人	1人	
合計	23人	10人	33人

第6表 利用者の居住先 平成30年3月末日

区分	自宅	GH	つばき寮	計
男	15人	6人	2人	23人
女	4人	4人	2人	10人
計	19人	10人	4人	33人

第7表 送迎車両利用状況（平成30年3月末日）

区分	岡山便	倉敷便	町内便	合計
男	5人	5人	3人	13人
女	2人	3人	1人	6人
計	7人	8人	4人	19人

4. 事業内容の状況

① 相談及び援助

相談支援センター及び各関係機関と連携し、利用者の心身の状況や健康等の把握に努め、利用者及び家族に対し適切な情報提供を行った。

② 生産活動

おしぼり生産作業においては安定した作業量の受容があり、作業を通じての就労意欲、作業する上でのマナー及びルールを指導し、作業能力や社会性の向上を図ることができた。自動車部品のリサイクル作業においては、受注量の確保が難しい状況から取引先と協議を行い、平成30年3月末で取引を終了する。

③ 社会参加

所内行事及び他団体との交流会を実施し、利用者の社会性の向上を図った。

第8表 社会参加状況

日程	内 容
4月	歓迎会・花見会
5月	ボウリング大会
6月	ふるさと祭り
10月	おしぼり協会懇親会
11月	社会見学及び研修旅行
1月	初詣・新年会
3月	慰労会

④ 職場実習、求職活動等の支援

利用者の適性や希望（意向）を尊重し、A型事業所へ体験実習に参加するが、福祉的就労へ移行することはできなかった。

（食事提供）

利用者をメンバーに加えた食事保健委員会で協議や嗜好調査を行い、栄養バランスがとれた季節感ある食事の提供を行った。

（健康管理）

定期健康診断の実施と作業後の手洗い・うがいの励行に努めた結果、新型インフルエンザに感染する利用者は発生しなかった。

5. その他

（安全管理及び防災対策）

日々の作業開始前に作業時の安全・危険防止について、繰り返しの指示、指導を行うとともに通報・消火訓練等を実施した。また、業務委託による設備点検に加え消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。更に地震発生時の避難訓練も行った。

（職員研修）

各研修会を通じ、全職員が利用者支援の基礎から専門分野に至るまでの個々の段階に応じた研修に参加し、自らの資質向上に努めた。

（苦情解決）

第三者委員会を年3回（7月・11月・2月）開催した。利用者及び保護者からの苦情受け付けはなかったが、施設内で発生した、利用者事故について2件、第三者委員へ報告を行った。

第9表 事故内容

年月	内 容
29年4月	（状況） 男性利用者（36歳・知的、身体障害者）が事業所内を移動中に転倒し、左手中指を負傷する。
	（対応） ・施設賠償保険使用 （対策） ・施設内の移動において、焦らず、ゆっくり安全に注意し行動するように声掛け支援と利用者への見守り支援を実施する。
29年9月	（状況） 作業棟内で、男性利用者（36歳・知的、身体障害者）が椅子から立ち上がる際、足元にあった、台車に足が引っ掛かり左足膝を負傷する。
	（対応） ・施設賠償保険使用 （対策） ・作業棟内における器具、備品の整理整頓を行い、安全配慮を徹底する。 作業員へ作業棟内において、十分危険に配慮し行動するように声掛け支援を徹底する。

第10表 第三者委員

吉備国際大学副学長	保積功一
吉備中央町知的障害者相談員	吉岡喜代子

吉備の里たんぽぽ（生活介護事業）
平成29年度事業報告書

1. 概 要

平成25年4月より、障害福祉サービスの生活介護事業所(定員20名)として開設。新設移転して5年目となる。活動内容は、自立に向けた生活支援を行いながら、絵画・切り絵・さをり織り等の創作活動等を支援している。29年度は、利用者の平均障害支援区分が28年度の3.6から4.0へと少し重度化した。障害の変化や特性に応じプログラムを見直すことで利用者の参加出来る活動を増やした。

2. 事業計画の重要事項

①利用率の向上

4月当初19名で活動を開始した。年度内に新規に3名契約して、利用率の向上に努めた。月平均約75%の利用率であった。精神的・体調不良等により、欠席があり利用率が減少した。

②利用者の活動の充実

重度化・高齢化対応策として、音楽活動の導入をはじめ、体操・造形・体育の外部講師による活動を実施した。室内での10分ウォーキングの新規プログラムを取り入れて健康づくりに力を入れた。

(1)利用者の状況

月	契約者 (人)	開所日 (日)	延利用者 (人)	利用率 (%)
4	19	22	325	73.8
5	19	23	338	73.4
6	19	22	327	74.3
7	19	23	314	68.2
8	20	22	334	75.9
9	20	22	331	75.2
10	21	23	358	77.8
11	21	22	347	78.8
12	21	22	351	79.8
1	21	23	358	77.8
2	22	22	329	74.8
3	22	23	341	74.1
計	244	269	4,053	75.3

(2)平均障害支援区分

区分	利用者	男	女	平均区分
2	2	0	2	4.0
3	5	4	1	
4	8	6	2	
5	4	3	1	区分6・5の割合
6	3	3	0	31%
計	22	16	6	

(3)年齢構成

年齢区分	男	女	平均
20歳未満	0	0	40.6歳
20～29歳	4	1	
30～39歳	5	2	
40～49歳	5	0	
50歳以上	2	1	
60歳以上	0	2	
計	16	6	

(4)利用者の居住先

	自 宅	つばき寮	グループホーム
男	12	0	4
女	5	0	1
計	17	0	5

(5)送迎車利用状況

	岡山便	倉敷・総社便	吉備中央町内 都市内
男	4	3	5
女	2	2	1
計	6	5	6

(6)体験利用者の状況

体験利用を延べ7名。新規利用者契約3名となり、年度末までに合計契約者22名。30年4月1日付には、2名契約となる。

項 目	月 日	内 容
体験利用	7 月	町内 男性 1名
	10 月	町内 男性 1名
	11 月	支援学校女性 1名
	12 月	早島町 男性 1名
	1 月	町内 女性 1名
	2 月	早島町 男性 1名
	3 月	岡山市 男性 1名

(7) 外部講師による活動状況

内 容	開催日	内 容
音 楽	第3 水曜日	楽器(キーボード・大正琴・オカリナなど)音に合わせて体を動かす。
体 操	第4 水曜日	ゲーム・ボールなどで機能維持・気分転換を図る。
造 形	第3 木曜日	油および紙粘土を素材にして、個々の特徴が現れる作品の制作。
体 育	第1、3 金曜日	レクリエーション通じて身体機能維持増進を図る。

(8) 地域ボランティア活動

活 動 場 所	日 程	内 容
特別養護老人ホーム 吉備高原賀陽荘	第3 月曜日	レクリエーション 補助、交流等 実施
総 社 宮	第3 水曜日	老人クラブと合同 で清掃奉仕作業を 実施

(9) 行事・施設外活動等

日 程	場所・展示・内容
29. 4 月	花見会
5 月	社会見学 きらぼしアート展
6 月	ふるさと祭り
	◇トマト銀行作品展
	いちご狩り
	社会見学 高梁市歴史美術館
7 月	社会見学 松田牧場・砂川公園
8 月	社会見学 高梁市成羽美術館
	◇大和郵便局作品展
9 月	◇かかし祭り出展
10 月	研修旅行(兵庫県赤穂市方面)
11 月	調理実習(お菓子作り)
12 月	ホワイトパーティー
30. 1 月	初詣 総社宮

・その他 家族会との関わりとして、総会・誕生日プレゼントなど利用者・家族・事業所と一体になって、活動を後押ししていただいた。

(10) 販売活動

さをり織りの製品製作・販売に保護者の協力が得られた。

(11) その他

【「ヒヤリ・ハット」及び「事故」報告】

日 付	内 容
①H29. 7. 19	送迎車両の物損事故 町内を運転中に左路肩に一時駐車していたところ、後方から追突される事故が発生。
対応	100%の相手側の車両の過失となり、加害者の全額保険対応。
②H29. 7. 27	送迎車への苦情について 総社市内を走行中に、追い抜きに関する苦情を一般市民より電話で受け付ける。
対応	運転員に対して、送迎中は追い抜き禁止として、安全運行に努めることを徹底させる。

【第三者委員】

事業所内外で発生した、ヒヤリハットおよび事故報告等を今一度検証して、適切なお意見をいただいた。今後とも透明性のある事業運営と利用者へのさらなるサービス向上に向けて取り組んでいく。

年3回実施(7月・11月・30、2月)

吉備国際大学 副学長	保積 功一 氏
元吉備中央町知的障害者相談員	吉岡 喜代子 氏

【防災対策】

通報・消火等の訓練を実施するとともに、設備点検(業者委託)や消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。日中において、地震発生時の避難訓練も行った。

【健康・衛生管理】

歯科検診・定期健康診断の実施のほか、看護師による毎日の健康確認に努めるとともに、体重超過や肥満傾向が見られたため、対策としてストレッチや運動を積極的に取り入れながら、体調維持を図った。今後とも家庭と情報共有して、健康づくりにつなげていきたい。手洗い・うがいを励行して注意喚起をする。インフルエンザ等の感染症等には至っていない。

吉備の里つばき寮 平成29年度事業報告書

1. 概要

平成22年4月から宿泊型自立訓練事業（生活訓練）を実施し、一般就労している障害者や就労継続支援A型・B型、就労移行支援、生活介護等の障害福祉サービスを利用している障害者を中心に、日常生活スキルの向上等を目的とした生活訓練や余暇活動の充実に向けた各種の支援を行うことにより、地域生活への移行を促進した。

2. 事業計画の重要事項への取り組み

（1）個別支援（訓練）サービスの充実

地域生活への移行に向け、規則正しい生活の確立を基本として、生活スキルの習得や余暇活動の充実等利用者個々のニーズに応じた訓練と必要な支援の実施に努めた。

具体的には、職員の早出勤務において、起床支援をはじめ基本的な身辺処理等の支援を行うと共に、チェック表を活用して出勤準備や健康状況を確認して個別の指導・支援を行った。

また、遅出勤務では、利用者の帰寮後から、金銭管理や居室の整理・整頓、食事準備や片付けの指導の他個別に相談支援を行った。

全体的には、日常生活における課題の軽減につながる利用者が多く、一定の効果が見られるようになった一方、集団生活に馴染めず、指導・支援にさらなる工夫を要する利用者もいた。

（2）地域生活移行の推進

宿泊型自立訓練の利用期間は原則2年間となっており、年度末までに利用者10名が期間満了を迎えることとなった。その内グループホームへ5名、福祉ホーム、アパート、自宅へ各1名が移行することとなったが、3名は予定していたグループホームの設置が進まなかったことから、やむを得ず利用期間の延長を行うこととなった。

また、2名が期限を待たずして自宅での生活に戻ったため、合計9名が施設を出て地域生活を送ることとなり、目標としていた11名を若干下回る結果となった。

【退所者・地域移行の状況】

移行先等	人数
グループホーム（法人内）	3名
グループホーム（法人外）	1名
福祉ホーム（法人内）	1名
アパート	1名
自宅	3名
計	9名

（3）利用の促進と運営の安定化

当初計画では、退所者の補充として12名の新規利用を目標として募集活動を行ったが、年度当初に6名、途中で4名の計10名の利用にとどまり、目標には若干届かなかった。

また、月平均利用者数については、16名を目標としていたが、こちらは16.9名の利用があり若干目標を上回る結果となった。

【新規利用の状況】

入所前の所属	人数
障害者支援施設（法人内）	5名
支援学校	1名
グループホーム（法人内）	1名
在宅	3名
計	10名

3. 利用者の状況

年度内に新規入所者が10名、退所者が9名あり、年間平均利用者数は16.9人となった。

利用者数が定員を常に下回る状態が続いたため、関係団体や相談事業所等に利用を働きかけ、体験利用へも導いたが、年度内に定員を充足するには至らなかった。

年間の利用状況は次のとおりであった。

【 利用状況 】

月	項目	内 訳		
		初日	入所	退所
4月		17	5	
5月		17		
6月		17	1	
7月		18		1
8月		17		
9月		17		
10月		17		2
11月		15		
12月		15		
1月		17	2	
2月		18	1	
3月		18		6
計		203	9	9

平成30年3月31日時点における利用者の状況は次の①～⑤のとおり。

① 【 障害支援区分別構成 】

障害支援区分	男	女	計
1	1	1	2
2	1	2	3
3	2	1	3
4	2	2	4
非該当	1	1	2
なし	4	0	4
計	11	7	18

② 【 手帳区分別構成 】

手帳区分	男	女	計
身体障害者手帳	1	1	2
療育手帳	8	6	14
精神保健福祉手帳	2	1	3
計	11	8	19

※重複障害者1名あり

③ 【 出身地別構成 】

市町村	男	女	計
岡山市	1	1	2
倉敷市	1	2	3
総社市	2		2
浅口市	1		1
備前市	1		1
津山市	1	1	2
吉備中央町	2	2	4
奈義町		1	1
広島県尾道市	1		1
高知県南国市	1		1
計	11	7	18

④ 【 日中活動区分別構成 】

日中活動先	男	女	計
一般企業等	1	1	2
就労継続A型	4	2	6
就労継続B型	3	4	7
就労移行支援	2		2
職業訓練校	1		1
計	11	7	18

⑤ 【 年齢別構成 】

年齢区分	男	女	計
18～19歳	1		1
20～29歳	8	3	11
30～39歳	1	3	4
40～49歳			
50～59歳	1	1	2
計	11	7	18

4. 生活訓練の状況

地域移行に向けた日常生活スキルの向上を図ることを目標とし、健康・衛生管理、身辺処理、金銭管理指導等を行うとともに、食事提供や余暇活動等の支援を行った。

(1) 食事提供

日常の食事は、法人給食委員会での協議や嗜好調査を踏まえ、季節感のある食事の提供を行った。

その中で、配膳、片付け、清掃については利用者全員が当番制で行い、個々の役割意識を高められるよう支援した。

また、日曜日の昼食は、利用者と職員で月1回程度、調理実習を実施して、楽しみながら簡単な調理が習得できるようにした。

(2) 健康・衛生管理支援

看護師が中心となり、定期健康診断のほか、毎月血圧、体重測定、服薬確認等を行いながら、日常の健康管理に努めた。

また、うがいや手洗いの励行・マスクの着用などを働きかけ、インフルエンザやノロウイルスなどの感染予防に努めたところ、利用者1名がインフルエンザに感染したものの、症状は軽微なものにとどまった。

(3) 余暇活動支援

寮内において、利用者がゆとりと活力に満ちた生活が送れるよう施設行事の開催や地域行事への参加を行った。

開催行事の企画にあたっては、利用者の主体性を尊重し、意向や希望を多く取り入れることに努めた。

【 行事の状況 】

月	行 事 名	場 所
4 月	花見会	寮 内
	利用者自治会総会	
	さんさん祭	町 内
	新利用者歓迎会	寮 内
6 月	自治会旅行	山陰方面
8 月	北部住区夏祭り・鬼伝祭	町 内
9 月	合同運動会(雨天中止)	町 内
10 月	吉備高原車いすふれあいロードレース大会	町 内
	映画鑑賞・買物訓練	倉敷市
12 月	忘年会	町 内
1 月	家族の会新年会	岡山市内
3 月	退所者 送別会	岡山市内

(4) 利用者研修

寮内での生活を地域生活、社会生活の一部に置き換え、それらの基本を学ぶための研修を定期的実施した。多くの利用者が日常的な生活の中で自分本位になっている部分などが確認でき、意識の改善につながった。

5. 相 談 支 援

個別支援計画の作成にあたり、個別懇談を行って利用者及び家族の意見・要望を聞きながら計画に盛り込むよう心がけた。特にサービス内容の変更や障害福祉サービスの変更調整に当たっては、本人・家族・関係機関等との連携を密にするとともに、丁寧な説明を実施して相互に確認できるよう適切な支援に努めた。

6. そ の 他

(1) 利用促進

宿泊型自立訓練事業所連絡協議会（県内3施設加盟）において説明会を開催し、宿泊型自立訓練の必要性や魅力をPRするとともに、県内の相談支援事業所等を訪問して利用者募集を働きかけた。

また、法人内においては、障害者支援施設吉備の里なでしここと連携を図って利用率の向上に努めた。

(2) 見学・利用相談・体験利用の受け入れ

吉備の里なでしこをはじめ、市町村や相談支援事業所、支援学校等と連携を図るとともに、見学や利用相談を積極的に受け入れた。

その中から興味を示した方には、施設をより深く理解してもらうために、空き部屋等を活用して3日～5日程度体験利用として受け入れを行った。

(3) 生活環境の整備

設備の老朽化に伴う改修は前年度までに行ったことから、今年度は小規模な修繕のみを実施するとともに、維持や美化に努めた。

(4) 安全管理

消防計画に沿って防災訓練を行うとともに、

設備の定期点検を行い、不備がある場合には早急に対応して安全の確保に努めた。

また、法人内での防犯研修や危機管理研修、安全運転講習等に参加して職員の危機管理意識の向上を図った。

(5) 苦情解決

福祉サービスに対する苦情の申し出はなかったが、11月には苦情解決第三者委員への状況報告を実施して、サービス向上のためのアドバイスを受けた。

第三者委員名簿

所 属	氏 名
吉備中央町社会福祉協議会 副会長	黒田 員米
塚本内科医院居宅介護事業所 管理者	柳原 富美男

(6) 家族の会との連携

吉備の里地域生活ホームと合同で家族の会を設置しており、利用者・家族・職員が行事や研修を一緒に行うなどして連携の維持・強化を図った。

(7) 地域との連携

地域住民会に北部住区自治会第6班の一員として参加し、一斉清掃や地域の各種行事を通じて、地域社会活動の関わりを深めた。

(8) 利用者の自治会

利用者全員が参加する自治会を組織し、行事や余暇活動に利用者意見を反映できるようにするとともに、寮の運営などに対する意見にも耳を傾けてサービス向上に生かした。

吉備の里地域生活ホーム 平成29年度事業報告書

1. 概 要

平成29年度は、定員96名の定員で共同生活援助事業(介護サービス包括型)の運営を行ったが、年度末に1GHを廃止したため、定員を92名に変更した。

共同生活住居の中での支援の質を高め、日中活動(就労等)をはじめ、日常生活支援や金銭管理の支援、医療支援及び相談支援を中心とした個別の支援の充実を図っている。

また、直接の支援者でもある世話人の支援力向上を目指して定期的に会議を開催している。

事業推進体制

利 用 定 員	92 名
体 制	管理者 1 名
	サービス管理責任者 4 名(兼1名)
	生活支援員 4 名(兼1名)
	看護師 1 名
	世話人 35 名

共同生活住居の設置状況

名 称	入居定員	開設年度
嵯 峨	6 名	平成 8 年度
下 加 茂	4 名	年度末で廃止
上 野	5 名	平成 14 年度
吉備 1 号(A)(B)	9 名	平成 15 年度
吉備 2 号(A)(B)	10 名	平成 15 年度
長 坂	4 名	平成 17 年度
さん S U N	6 名	平成 20 年度
あ じ さ い	4 名	平成 22 年度
あ ざ み	2 名	平成 23 年度
つ つ じ	5 名	平成 24 年度
す み れ	4 名	平成 24 年度
アンサンブル	8 名	平成 24 年度
ヴェスタ	20 名	平成 24 年度
あ さ が お	5 名	平成 27 年度
計	96 名	

2. 事業計画の重要事項への取り組み

(1) 希望に応じた地域への移行促進

入居者より単身生活への移行及び地域生活に向けた相談を受け、平成29年度は、2名の地域移行者の支援を行った結果、2名が単身生活に移行した。(吉備中央町1名 倉敷市内 1名)

(2) 安心・安全な居住空間の確保

地域生活ホームの防災対策として、共同生活住居に自動火災報知設備を設置し、防犯カメラの設置などの安全対策を進めている。

また、食事を提供する上での衛生管理については、世話人に向けての研修を行うと共に日常的な食品管理について話し合いを行っている。

(3) 支援者間の連携の強化と支援の質の向上

共同生活住居で直接的な支援を行う世話人に対して障害への理解、具体的な支援の方法について定期的に会議を設け、支援の質の向上を図ると共に遅出勤務者が各共同生活住居を訪問し常に情報交換ができる体制に努めている。

特に世話人が事務所に気軽に入室し談話できる環境づくりに努め精神的な障壁の解除や支援の共通理解の場面設定に努めている。

入居者の多くが日中活動として、多様な事業所や福祉サービスを利用しており、日中活動の支援者とも密な連絡を図り、活動の充実に向けて取り組んでいる。

3. 入居者の状況

入居定員96名に対して月平均の入居契約者数は95名であった。4月末に、病氣療養のため、1名が退所した。また、9月に1名、3月1名地域移行し、1名がつばき寮での再利用のため定員に欠員ができたが、つばき寮との連携により、定員の充足を図った。

第1表 利用（契約）の状況

月	男	女	計
4月	66	30	96
5月	65	30	95
6月	65	30	95
7月	65	30	95
8月	65	30	95
9月	65	30	95
10月	64	30	94
11月	66	30	96
12月	66	30	96
1月	66	30	96
2月	66	30	96
3月	66	29	95
計	785	359	1,144

第2表 年齢別構成（3月31日現在）

年齢区分	男	女	計
20歳未満	0	0	0
20～29歳	21	6	27
30～39歳	13	9	22
40～49歳	17	9	25
50～59歳	13	4	15
60歳以上	2	1	3
計	66	29	95

平均年齢 39.7歳

第3表 障害程度区分別構成（3月31日現在）

障害程度区分	男	女	計
1	4	7	11
2	24	19	43
3	12	13	25
4	6	2	8
5	2	2	4
非該当・未	3	1	4
計	51	44	95

第4表 日中活動区分別構成（3月31日現在）

日中活動区分	男	女	計
一般企業等	18	8	24
A型事業所	35	11	45
B型事業所	10	5	15
生活介護事業所	3	1	4
就労移行支援事業	0	0	0
職業訓練施設	0	0	0
日中活動なし	2	2	4
計	68	27	95

4. 生活支援

世話人による日常生活（食事）支援に加え、生活支援員が通院や外出支援、余暇支援等の他、地域生活ホームの共有部の清掃の他、入居者の意向を確認した後に居室内の清掃支援など一部介助を実施している。

（1）食事提供

朝、夕の手作りによる調理を世話人が担う中で、アレルギーの有無に注意し、おいしい食事と共に安心して食事ができるように食事提供を実施している。

その中で男女別や年齢構成、個人の嗜好や意向と季節感に考慮しながら献立を立案しており、利用者の多くから満足しているとの声が聞かれた。

（2）健康・衛生管理支援

看護師を配置し、365日・24時間の体制で日常の健康管理の他、緊急時対応の充実を図っている。

定期健康診断のほか、必要に応じて血圧、体重測定を行いながら日常の健康管理に努めている。

生活習慣病の発生が懸念される入居者が増加しており、血糖値の測定・インシュリン注射の支援など具体的な医療支援も実施している。

（3）金銭管理支援

利用者本人の同意を得ながら、世話人が日常的な預貯金の出し入れ、小遣い支給等の管理を行い、サービス管理責任者が、9月末・3月末時点の預り金について利用者・家族に報告を行った。

金銭の支出を理由なく制限することも障害者虐

待に繋がることを支援者間で学習を実施し、直接的な支援に関わる世話人にも理解してもらうように繰り返しの指導を行っている。

(4) 求職活動・就労支援

第4表にあるように入居者の入中活動の場所が「就労継続支援A型事業所」が最も多くなっており、地域の社会資源との連携がより重要となっている。

加齢による職業能力の低下や産業構造の変化なども今後に予想されるものであり、多様な部分について注視していくことが重要と思われる。

また、就労先事業所を訪問しながら、利用者の就労状況の把握を行い、事業所からの相談やトラブルの発生に対応するとともに必要に応じてケア会議等を開催し共通認識に努めている。

(5) 余暇活動支援

休日の時間の過ごし方を課題とする入居者の支援として、各種行事を開催し参加を促している。

開催行事の企画にあたっては、主体性を尊重し、入居者の意向を多く取り入れることに努めた。

家族の会の協力を得て、活動に対して費用の一部補助を受ける事が可能となり、大阪や東京にあるテーマパークへの旅行やプロ野球のナイター観戦などの多様な余暇に楽しむことができる。

行事開催・参加の状況

月日	件名	場所
4.9	花見会	体育館
6.4	吉備の里ふるさと祭り	所内
8.5	北部住区夏祭り	町内
10.8	ロードレース大会	町内
1.14	家族の会新年会	岡山市

(5) 入居者研修

支援している中で見られる入居者の課題などを入居者研修として座学や実践の場を設定し、社会生活の中で活用できるように支援を行っている。

入居者研修の状況

(6) その他の日常生活支援

サービス管理責任者、生活支援員、世話人が協力し、家庭と連携をとりながら、各種の申請や調整等の支援を行っている。

5. 相談支援

サービス管理責任者を中心に、新規利用に関する相談や家族関係の相談、利用者間のトラブルに関する相談など、利用者の安定した生活の維持をめざして様々な相談を行っている。

日常的な相談については、生活支援員や世話人も含めて適切に対応し、入居者の安心した生活につながるよう職員間のネットワークを重視した支援を行っている。

6. その他

(1) 利用促進

つばき寮からの新規利用者を受け入れるとともに、次年度の地域移行者を想定した利用計画を立案し対応を検討している。

(2) 生活環境の整備

共同生活住居の構造物の中で老朽化している部分については、修繕を適宜実施し快適な生活に繋がるように支援を実施している。

(3) 安全管理

避難訓練や通報訓練を消防計画に沿って引き続き実施するとともに、防災機器の点検管理や避難経路の確認等を定期的の実施した。

消防署には、住居の周辺地図と家屋の写真を資料提供し、緊急時に速やかな消防、救急体制が行われるように協力を依頼している。

新しく世話人業務に就いた支援者には、救命救急法の講習に参加してもらうなど、安全管理意識の向上に努めている。

(4) 苦情解決・サービス評価

福祉サービスに対する苦情として受け付けたものは無いが、「ヒヤリハット事案」として第三者委員に報告を実施し指導を受けている。

第三者委員名簿

所 属	氏 名
吉備中央町町議会議員	黒田 員米
塚本内科医院居宅介護事業所管理者	柳原 富美男

(5) 保護者との連携

吉備の里家族の会として保護者と合同行事や定例会を開催し、意見交換やレクリエーション、共同作業、研修会等を行っている。

また、各家庭へはサービス管理責任者や世話人が中心となって日常的に連絡を取り合っている。

(6) 地域との連携

それぞれの住居が属する地域の住民自治会に入会して地域住民と一緒に活動を行っている。

毎年恒例行事に参加する団体としての認知も深まり、地域からのリクエストも増えている。

地域の行事や活動に参加することで障害者の地域生活への理解が深まることから今後も積極的に支援を行うものとする。

吉備の里チャレンジ 平成29年度 事業報告書

1. 概要

障害者と雇用契約を結び、外構維持管理清掃業務、建物清掃、農作物の栽培作業及び調理委託業務を行いながら、仕事に関わる知識の習得や能力・技術の向上に向けた支援を行った。

事業の内容（作業）

①	屋内清掃業務	業務委託
②	屋外整備業務	業務委託
③	給食提供業務	業務委託

組織体制

利用定員 20名	
管理者	1名
サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	8名
作業員	3名
栄養士	1名

2. 事業目標への取り組み

(1) 就労機会の提供と作業能力の向上

障害者総合支援法及び労働基準法を遵守し、屋内清掃業務、外構清掃業務及び給食業務を行うことで、作業の訓練と就労支援を行なった。

また、障害特性を配慮し、それぞれの作業配置を行うことで支援を行なった。

(2) 安全で安心な職場づくり

安全には十分な配慮を行いながら作業に取り組んでいたが、今年度は蜂さされ（2名）、足首捻挫（1名）の利用者労災事故が発生した。

対応策として、作業現場の確認、利用者への注意喚起を行い安全への配慮を行った。

(3) 賃金

賃金については最低賃金を確保し支給する事が出来た。

（法改正 平成29年10月1日 757円→781円）

3. 利用者（社員）の状況

（利用定員20名）

月	在籍数 (人)	開所日 (日)	延人数 (人)	人数/日 (人)	利用率 (%)
4月	23	30	467	15.6	78.0
5月	23	31	497	16.0	80.0
6月	23	30	489	16.3	81.5
7月	23	31	475	15.3	76.5
8月	23	31	469	15.1	75.5
9月	23	30	473	15.8	79.0
10月	22	31	492	15.9	79.5
11月	22	30	457	15.2	76.0
12月	22	31	455	14.7	73.5
1月	22	31	470	15.2	76.0
2月	22	28	419	15.0	75.0
3月	22	31	466	15.0	75.0
計	270	365	5,629	15.4	77.1

入退職者の状況

入職者	0名
退職者	3名

生活の場の状況（3月末時点）

生活の場	男（人）	女（人）	計（人）
地域生活ホーム	13	6	19
つばき寮	0	0	0
自宅	2	1	3
計	15	7	22

年齢別構成（3月末時点）

年齢区分	男（人）	女（人）	計（人）
20歳未満	0	0	0
20～29歳	4	2	5
30～39歳	3	6	6
40～49歳	6	0	8
50～60歳	2	1	3
計	15	7	39.2歳

出身地別構成(3月末時点)

出身地区分	男(人)	女(人)	計(人)
岡山市	5	1	6
倉敷市	2	2	4
総社市	1	0	1
玉野市	1	0	1
笠岡市	1	0	1
真庭市	1	0	1
井原市	0	1	1
吉備中央町	4	2	6
美咲町	0	1	1
計	15	7	22

4. 作業支援の状況

各事業所から受託した外構維持管理清掃業務(草刈・草取作業、松喰木伐採、樹木剪定等)建物清掃業務(屋内清掃業務)、農作物の栽培・販売作業及び調理委託業務(法人内給食)を行った。

支援費等収入

延べ営業日	365日
延べ利用者数	5,629人
支援費等収入	36,971,100円
障害者雇用調整金等	12,717,000円

(屋内清掃業務)

受託先及び内容

主要受託先	内 容
独立行政法人 国立吉備高原職業 リハビリセンター	清掃業務
吉備中央町 企画課	吉備北公園維持管理
株式会社 吉備 NC 能力開発センター	宿舎・会社清掃業務

業務体制

職業指導員	非常勤2名(7.5h)
勤務時間	7:30~16:00(7.5h)
社員(男子)	5名
社員(女子)	4名
勤務時間	7:30~15:30(6h)

(屋外清掃業務)

受託先及び内容

主要受託先	内 容
吉備中央町水道課	上水道施設草刈清掃業務 簡易水道施設草刈清掃業務 浄化センター外構維持 管理業務
独立行政法人 国立吉備高原職業 リハビリセンター	プール管理業務 外構維持管理業務
独立行政法人 国立吉備高原医療 リハビリセンター	外構維持管理業務

※その他、随時受託。

業務体制

職業指導員	常勤3名
勤務時間	8:00~17:00(8h)
社員(男子)	8名
社員(女子)	0名
勤務時間	8:30~16:30(6h)

(給食提供業務)

受託先及び内容

受託先	内 容
社会福祉法人 吉備の里	調理業務

業務体制

職業指導員	常勤3名
栄養士	常勤1名
作業員	非常勤3名(8h, 7.5h, 4h)
勤務時間	5:00~19:00(シフト)
社員(男子)	2名
社員(女子)	3名
勤務時間	7:10~18:45(6hシフト)

(賃金支給)

岡山県の最低賃金が平成29年10月より757円から781円に変更となり対応した。

平成29年度 賃金支給状況

内容	総支給額	平均月額
金額	26,078,995円	96,589円

（食事提供）

利用者の作業場所（屋内・外構・給食）が異なっているため、昼食については、チャレンジの提供している給食だけでなく、本人の要望を受け、外部の宅配弁当及び職業リハの食堂で取ることにしている。

（健康管理支援）

定期健康診断の実施及び作業後の手洗い・うがいについて利用者研修を行い健康管理に努めた。新型インフルエンザに感染する利用者は１名発生したが大事にはいかなかった。

（利用者研修）

利用者間の親睦を深めるため、１０月に日帰り研修を実施、３月には健康管理のため、栄養士による手洗い・うがいの大切さ、又作業を安全に行う上でのチームワークの必要性及び草刈機の安全な使い方について研修を実施した。

５．相談支援

個別支援計画の作成にあたり、利用者及び家族の意見・要望を十分反映するため、個別懇談を１０月、３月の２回開催し、支援計画に盛りこむことができた。多くの利用者及び家族からは、長期間の利用をしたいと要望があった。その他の日常的な相談については、適切に応じた。

６．その他

（職員教育の推進）

全職員個々の段階に応じた利用者支援の基礎から専門分野に至る研修等へ参加をすすめ、全職員の資質の向上に努めた。

（作業環境への整備）

安全・衛生的で働きやすい職場環境にするため、グループごとの作業場及び休憩所の環境美化を促進した。

（安全管理）

防災訓練の定期的な実施に加え、作業で扱う機械等の安全教育を利用者及び職員に行ない、安全確保に努めた。

利用者の労働災害が発生したため、作業での安全管理の徹底を図った。

（作業現場の安全確認等）

（ヒヤリ・ハット及び事故）

３件

（労働災害）

平成２９年度は労働災害申請３件。

（蜂さされ ２名）

（道路縁石での足首捻挫 １名）

（行事実施状況）

月	内 容	場 所
６月	A型事業所交流会 （平成いもの会）	岡山
７月	慰労会	町内
１０月	日帰り研修旅行	香川
１月	初詣	岡山

（苦情解決）

福祉サービスに対する苦情として受け付けたものはなかった。